「不登校」を考える ③

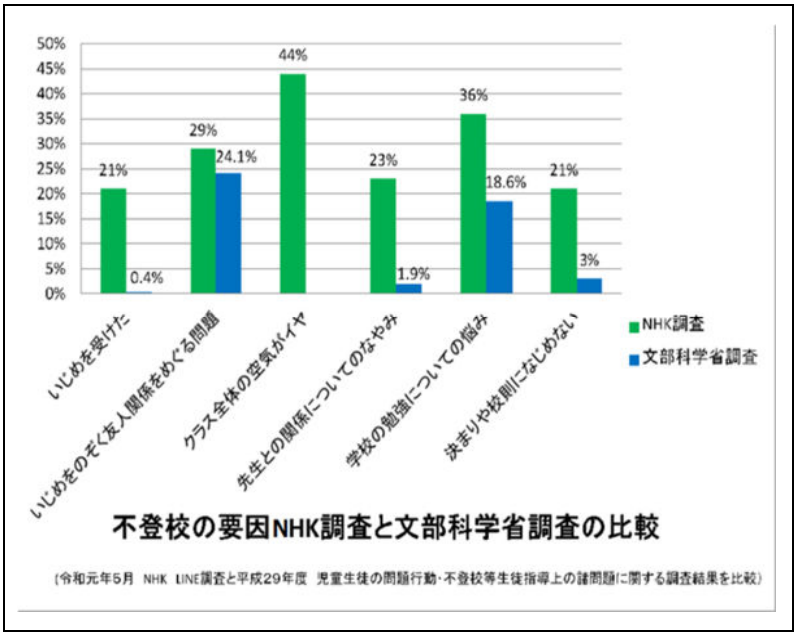
臨床心理士　福田　求
（“ののはな”教育相談）

4 不登校の要因

(2) ストレス理論にみる不登校の要因

不登校はなぜ生じるのか。端的に言うと、学校に**行きたくない、**行こうとしても**体が動かない、**行く**意義がわからない、**などと児童生徒が感じたり考えたりするから不登校になるのです。**不登校を経験した児童生徒**に不登校の要因をアンケートしたNHK調査（参照下グラフ，Ｂ調査）をみても、**学校**に存在している**ストレッサー**（ストレスの素）は、「**いじめを含む友人関係**50%」「**クラス全体の空気**44%」「**学校の勉強**36%」「**先生との関係**23%」「**校則など**21%」）などが挙げられています。これは、**不登校の要因**が、**教師**が考える生徒側の「無気力」や「体調不良」などではなく、**教師には見えていない学校側に多くある**ことが分かります。

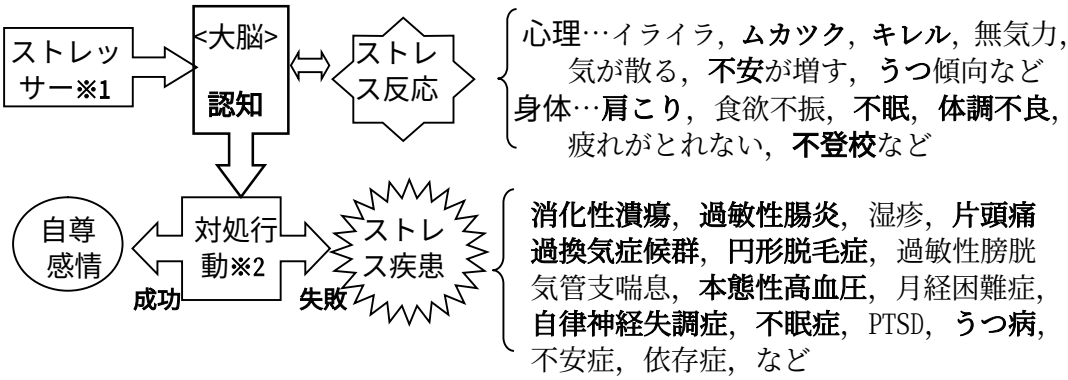
これらの学校ストレッサーに対して、児童生徒が、「嫌」とか「自分には対処できない」「脅威」と**認知**すると、**心理的・身体的不具合**（**無気力**，キレる・ムカつく，頭痛・腹痛，不登校）などの、**ストレス反応**が生じると考えられるのです（参照次頁の参考資料）。



(3) コーピング

ストレス反応が**日常生活を困難**にするような支障（例「**不登校**」など）を引き起こすようになると、人はその解消に向けて何らかの**対処行動**（**コーピング**）をとるようになりますが、よく行われている一時的な気分転換である**気晴らし行動**（例やけ食い、カラオケ、スマホゲームなど）では、経済的負担や「メタボ」などの身体的負担がかかるなどの副作用が大きく、コーピングは**失敗**し、消化性潰瘍や過呼吸症候群、うつ病などの**ストレス疾患**に悩まされることが多いようです。

参考資料　　ストレスとは？



※1　ストレッサー（ストレスの素となるもの）

①　社会的･･･　対人関係（いじめ・虐待を含む），学校，受験競争，学歴社会，低所得，低福祉，住宅問題，犯罪，差別，環境汚染，戦争など

②　自然的･･･　気温，湿度，黄砂，花粉，紫外線，地震，津波，台風など

③　個人的・生理的･･･　老い，病気（障害），死，不合理的な信念など

※2　対処行動（コーピング）

①　気持ちを楽にする方法

＊ 気晴らし行動〔 カラオケ ，自棄食，自棄酒，スポーツ，買い物，ゲームなど〕

＊ おしゃべり（愚痴を聞いてもらう）

②　問題を解決していく方法

ｉ）環境調整…　ストレッサーの除去　例　教育行政や学校の改革，転校・進路変更など

ii）認知的技法…　特定の誤った考えや思い込みの変容を助けるカウンセリング

例　完璧主義，～すべきだとする考え方，レッテル貼り、過度の一般化、など

iii）行動的技法…　問題となる行動を止めて、適応した行動を身につける研修を行う。

例 社会的スキル訓練(SST)、リラクセーション技法（呼吸法，自律訓練法など）など

一方、専門家によるカウンセリング（傾聴したうえで、認知の仕方を変えて行動を改善していく認知行動療法など）やリラクセーション技法などの問題解決型のコーピングを行い成功した場合は、自分の良い部分も悪い部分も丸ごと受け止めて（受容して）、他と比較して自分を卑下するのではなく、今の自分をどのように変えて

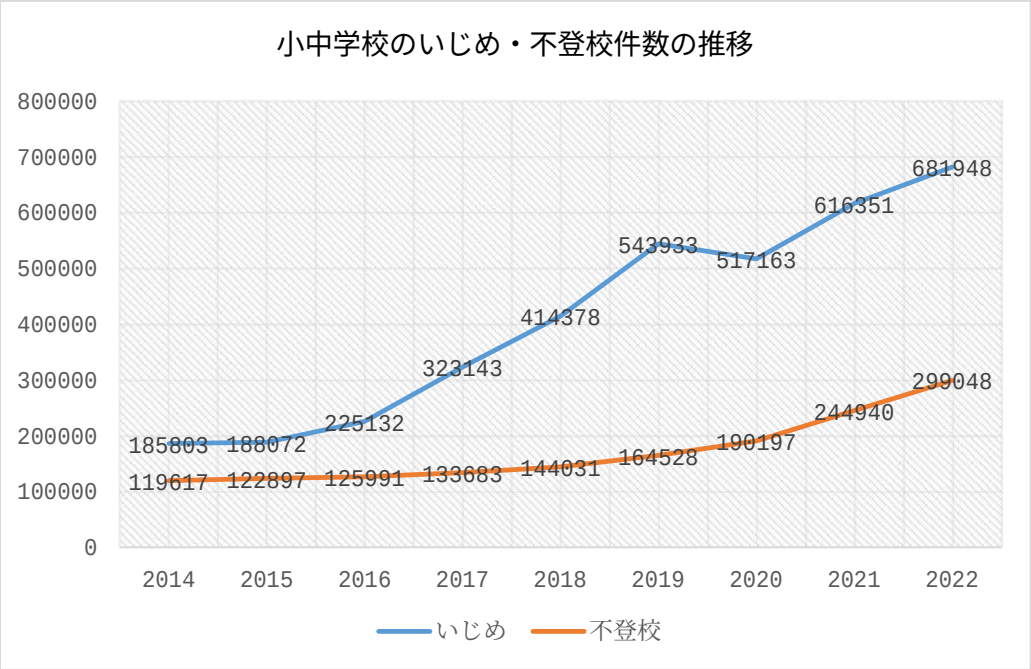
いこうとしているかに注目するようになります。そして少しでも**元気が出る**ような方向に自分が**変容**していく度に、**自尊感情**を高めていき、**本来の自分**を取り戻し、社会的に**自立**していくようになっていくのです（参照前頁の参考資料）。

5 不登校の社会的背景　　参照　**別紙**　**年表**&**不登校要因と背景の図**

(1) 不登校といじめ

不登校経験児童生徒の考える**不登校要因**（**いじめ**を含む**友人関係**，**クラス全体の空気**，**学校の勉強**，**先生との関係**，**校則**など）が生み出されてくる**社会的背景**は、前シリーズで述べた「**いじめを引き起こす社会的背景**」と同じです。その**社会的背景と不登校の要因は、相互に複雑な因果関係**を有しながら**個々の児童生徒**に**個別の不登校**や**いじめ**を引き起こしているのです。

因みにいじめと不登校の件数の直近の 7 年間の推移（参照下グラフ）を比較してみると、不登校件数は約 2.4 倍に、いじめ件数は約 3.6 倍に**急増**しています。これは両者が同一の社会的背景を有することから起こる現象ですが、現行の「**教科道徳**」の推進や、教員および児童生徒の**管理を強化**して、**いじめ**や非行・**不登校**などの



、

＜児童生徒の問題行動･不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査　文科省＞　など

問題解決を図ろうとしている**教育行政**の方向が、誤っているからではないでしょうか。

⑵ 民主主義教育への介入

東西の**冷戦激化により、米国が日本に再軍備を強制したことが、不登校増加の遠因**になっている？

１）日本の再軍備

日本国憲法が施行された頃、押し寄せる共産主義の波から米国を守る**防波堤**として日本を利用するという声が**米国**で上がりました。

1950 年、朝鮮戦争が始まると、**米国（GHQ）**が主導した**日本国憲法の平和主義**や**人権保障**の**精神**を米国自らが踏みにじり、**日本の再軍備**を強力に推進し始めました。即ち、「軍隊ではない」との屁理屈を強弁しながら**警察予備隊**（→保安隊→**自衛隊**）を創設したり、朝鮮戦争で損傷した兵器の補修や弾薬の生産を日本で行わせたりしました（**軍需産業**の復活）。また**再軍備に反対**する文書などへの**検閲**を強化したり、共産党員の**公職追放**や公務員労働者の**労働三権などを剥奪したりする**一方、岸信介などの**戦犯の釈放**や**公職追放の解除**を強行したのです。

枕流漱石「歌は世につれ、世は歌につれ」①

敗戦後、巷でよく歌われていたのは、「星の流れに　身を占って　何処をねぐらの　今日の宿　荒む心で　いるのじゃないが…　こんな女に　誰がした」という「星の流れに」（詞：清水みのる，曲：利根一郎）でした。「こんな女」にした張本人が我が政府だと知ってか知らずか、やるせない恨み節が人々の心を掴んだのでしょう。

1947 年に政府の戦争責任を明確にし、再び戦争をしないと宣言した**日本国憲法**が施行されて初めて、国民は**希望**を抱いて歩み始めたのです。

1949 年には「なぐさめ　はげまし　長崎の　あゝ　長崎の鐘が鳴る」と戦争被害者への鎮魂と、再起を願う「長崎の鐘」（詞：サトウ・ハチロウ，曲：古関裕而）が大ヒットし、「若く明るい歌声に　雪崩は消える花も咲く　･･･　今日もわれらの　夢を呼ぶ」（「青い山脈」詞：西条八十，曲：服部良一）もよく歌われました。

ところが **1950 年**になると、GHQ の厳しい検閲の下、「白い花が咲いていた　ふるさとの遠い夢の日さよならと言ったら　だまってうつむいてた　お下げ髪　かなしかったあの時の　あの白い花だよ」（「白い花の咲くころ」詞:寺尾智沙，曲：田村しげる）が流れます。「白い花」が、清新な**憲法の平和主義**を象徴しているかのようです。

この年、我が国が全ての戦争相手国との「全面講和を求む」という新聞の見出しが躍っていたので（蛇足誕生した私の名を父が「求」とした由）すが、翌 1951 年、政府は世論よりも米国の意向を重んじて、資本主義国だけと片面講和を結ぶとともに**日米安保条約**を締結し、国際社会において**米国従属**という**不「名誉ある地位」**を占めることになるのです。

因みに 1950 年の流行語は「おお！**ミステイク**」、1951 年は、「**逆コース**」でした。

２）平和教育への政府の介入

1953 年には、「**日本の再軍備と自国防衛の考え方**を徐々に**啓蒙**していく」という**日米合意（池田・ロバートソン会談）**を受けて、「**教え子を再び戦場に送るまい**」のスローガンの下、**日教組など**が実践している**平和教育**を骨抜きにするための政策が次々と打ち出されていきます。**教育二法**を成立させて**教師の政治的活動**を制限し、**政治的「中立」**を強制するとともに、**学習指導要領**の遵守や**教科書検定**による教科内容への介入などを行って、学会では極めて少数派である**政府の考え方**（自衛隊合憲論や歴史修正主義など）を児童生徒や教師に**押し付け**、**教育基本法**や**日本国憲法の精神**を蔑ろにしていったのです。

３）教職員組合への圧力

1970 年代に入ると、教師の働き方の実態を無視した**教員給特法**を定め、教師の**長時間労働**と**低賃金**を恒常化させるとともに、主任などの**中間管理職**を増設し、**教員定数法**と相まって、**教職員組合の分断・衰退**を図り、教師の**心身の健康**を阻害する**労働条件**を改善していく力を弱体化させていきます。これは**わかる授業**の創造をはじめ。生徒の**権利**や**自主活動**を尊重していこうとする**民主主義教育活動**にも大きな打撃を与えるものとなりました。

枕流漱石「歌は世につれ、世は歌につれ」②

1954 年、日米相互防衛援助協定が結ばれ、**自衛隊**が**自衛**のみならず、米軍との共同作戦を遂行する「**軍隊**」としてデビューしました。政府は「自衛隊は**憲法第９条**で保持しないとした**戦力には当たらない**ので合憲である」との詭弁を弄して国民を騙し、**米国の下僕**となっても**経済的利益**を得ることを優先したのです。

「この憲法のある限り　無条件降伏つづくなり　マック憲法守れるは　マ元帥の下僕なり」と 1956 年に「憲法改正の歌」を作り、**軍国主義**への回帰（自民党の党是）と対米従属からの脱却を主張した中曽根康弘でさえ、後に首相となってからは、我が国を米国の「不沈空母」にすると発言する体たらくぶりです。

一方、**逆コース**をひたすら歩む政府・財界が画策する **1960 年**の**日米安保条約改定**を巡って、国民は**大反対運動**を展開しますが力及ばず、安保条約はより**強力な軍事同盟**に改定されました。

「アカシヤの　雨に打たれて　このまま　死んでしまいたい…　冷たくなった　私を見つけて　あのひとは　涙を流して　くれるでしょうか」と歌う西田佐知子の「アカシヤの雨が止む時」（詩：水木かおる，曲：藤原秀行）が巷に流れました。安保闘争が挫折したことに落胆した人たちの心を打ったのです。

このような教育行政の下で、**教師**は教材研究や部活指導・生徒指導のために必要な**時間**が確保できず、自由な**教育活動**を**制限**され、先進国の1.5倍の教師一人当たりの児童生徒（**教員定数法**による）を抱え、**健康で文化的な最低限度の生活を営む**ことができていないのです。

以上のような要因が複雑に作用しあって、**教師**は**生徒に嫌われる？**存在に甘んじることとなり、**不登校の一因**と目されているのです。

⑶機能不全家族の増加

高成長の陰の部分として**過疎・過密**が進行し、地域の**コミュニティ**が壊れるとともに、**塾通い**の増大や**少子化**の影響もあり、児童の**社会化**や**コミュニケーション能力**の獲得に不可欠の**異年齢間集団遊び**が消滅していきました。**仲間**で**ルール**をつくりそれに従って仲間と**協調**して行動していくことができない子どもが増えていきます。彼らのなかには後に「モンスターペアレント」となり、自らが**機能不全家族**の形成者になるとともに、その子どもの**自尊感情**や**コミュニケーション能力**、延いては**社会性**の発達を阻害し、**不登校の要因**を作り

枕流漱石「歌は世につれ、世は歌につれ」③

1960年、国民所得倍増計画が発表され、鼻先に人参をぶら下げられた国民は、**右傾化**していく政治情勢には背を向け、目先の小さな**夢**を追い求めました。1961年、「チョイト一杯の　つもりで飲んで　いつの間にやら　はしご酒　･･･分かっちゃいるけどやめられない　ァホレ　スイスイスーダララッタ　スラスラスイスイスイ…」軽薄な生き方を自嘲するかのような「スーダラ節」（詞：青島幸男，曲：萩原哲晶）が、普及が進む白黒ＴＶで流され、**無責任時代**が幕を開けました。翌年には「星よりひそかに　雨よりやさしく　あの娘はいつも歌ってる…　お持ちなさいな　いつでも**夢**を」と、国民的な人気を博していた吉永小百合と橋幸夫がデュエットで歌った「いつでも夢を」（詞：佐伯孝夫，曲：吉田正）はレコード大賞を取り、映画も大ヒットしました。

暗い現実（政治）より**夢（経済）**を追う風潮は、「ハァー　あの日ローマで…　4年たったらまた会いましょと　かたい約束夢じゃない」の「東京五輪音頭」（詞：宮田隆，曲：古賀政男）で盛り上がり、オリンピック景気に続きいざなぎ景気を現出したのです。

しかしわが国のGNPが世界第2位となる**高成長**を遂げたその**歪**が、過疎過密や公害、インフレ、経済格差の拡大など、全国津々浦々で顕在化し、経済成長よりも**人間らしい生き方**を求める**住民運動**が盛り上がり、各地で**革新**自治体を誕生させました。

出していくのです。また**低所得家庭**では、学用品や制服、スマホやゲームソフトなどを買ってもらえなかったり、塾通いなどもできないため学力が低かったりすることから、子どもが学校で**孤立**し**不登校**になっていきやすいと考えられます。

1980年代から台頭してきた**新自由主義**（教育・福祉の予算を削り、非正規雇用を増大させ、**大資本の利潤を優先**させる）に基づく政治経済政策の推進が、ますます**機能不全家族とともに不登校**の拡大再生産を進めているのです。

⑷ 差別･選別の教育

朝鮮特需を梃として戦後の復興を進めた我が国の経済は、さらなる高成長を遂げるために、一握りの**エリート**と中等度の専門教育を受けた**低賃金労働者**を大量に必要としました。財界の意向を受けた中教審は**「期待される人間像」**を答申し、各人の個性･能力･進路･環境に適合する（できない者には「それなり」の）教育が推進されました。その結果、学力による**差別・選別教育（学校間格差）**が広がり、一握りのエリートを目指す**受験競争が**激化していきました。**人間性**よりも**偏差値**が重んじられる状況下で、**教員定数法**による**過密教室**での詰込み授業は、授業についていけない多数の**「落ちこぼれ」**を作り出し、**劣等感**に苛まれ**自尊感情**を傷つけられた児童生徒を**不登校**へと向かわせる一因となったのです。

枕流漱石「歌は世につれ、世は歌につれ」④

大学改革を目指す**学生運動**や、日本も加担したベトナム戦争が激化し、**反戦**フォークが盛んに歌われていた1966年、薄暗い友人宅の和室で、ピカピカ光るエレキギターを弾きながら、「ウェハヴォーザフラワーズゴーン（花はどこへ行った）」と、たどたどしい英語で友人が歌ってくれたものです。

1968年、高3の私がよく口ずさんだのは「受験生ブルース」（詞：中川 五郎，曲：高石ともや）でした。「テストが終れば友達に　ぜんぜんあかんと答えとき　相手に優越感与えておいて　後でショックを与えるさ　ひと夜ひと夜にひとみごろ　･･･サインコサイン何になる　俺らにゃ俺らの夢がある」。大した夢も抱いてはいませんでしたが、歌うことで「自分は自分だ。」と開き直ったのです。

1963年に流行った「赤い夕陽が校舎をそめて…ぼくら離れ離れになろうとも　クラス仲間は　いつまでも」と歌った「高校3年生」（詞：丘灯至夫，曲：遠藤実）と比べると、当時「4当5落」（4時間しか寝ないで勉強すると合格し、5時間以上寝たら落ちる。）と言われていた**受験地獄**が、皆の**心**を如何に**貧しく**させてきたことでしょうか。

「不登校」を考える④へ続く